



今回は、朝日大学戦国武将作文コンクールについて報告します。

◇ 地域研究部の生徒2名が、最優秀賞・優秀賞を受賞しました！

日 時： 令和元年9月7日(土) 場 所： 瑞穂市総合センター
主 催： 朝日大学 後援： 岐阜県教育委員会 NHK 朝日新聞 岐阜新聞
内 容： 表彰式 公開講座

◇ 受賞作品の研究内容

関高等学校地域研究部では、関州市制70周年イベント（戦国☆甲子園）に備え、関市やその周辺地域の戦国時代の歴史について、フィールドワークや勉強会を行っています。このたびの戦国武将作文コンクールにあたり、部員2名が、富加町におけるフィールドワークの成果をもとに作文を執筆し応募したところ、石原伶緒さん（2年生）と山内康誠さん（1年生）が、それぞれ最優秀賞、優秀賞を受賞しました。

石原さんの「東美濃攻略から見る織田信長」、山内さんの「織田信長、語られない天下布武の第一歩」とともに、フィールドワークの知見や読書の知識を生かした作文で、オリジナリティにあふれたものでした。

午前中の表彰式に続き、午後の部では、本郷和人氏（東京大学教授）から「明智光秀を学ぶ」、巽昌子氏（東京大学特任研究員）から「古文書からみる分国支配」と題した講演がありました。公開ディスカッションでは、本郷氏、巽氏、本校生徒2名を含む高校生が登壇し、織田信長が美濃国を攻略した理由、その足がかりとなった東美濃へのフィールドワークをもとに書かれた受賞作について意見が交わされました。

◇ 生徒の感想より

■ 富加町のフィールドワークから考えた信長像についての作文で、朝日大学の戦国武将作文コンクール最優秀賞を受賞した。そして、同大学で行われた表彰式、明智光秀についての公開講座に参加した。

公開講座では、東大史料編纂所の本郷和人先生、巽昌子先生のお話を聞いた。明智光秀について、今まで知らなかったことをたくさん聞くことができた。

また、「信長の考えた天下とは日本のことである。信長は自分の領地を守るためではなく、天下布武、天下統一を成し遂げるために戦っていた」。本郷先生が、このようにおっしゃっていた。僕も同じことを考え、作文にも書いていたので、すごく共感でき、嬉しかった。

2人の先生方がおっしゃっていた、歴史の研究はフィールドワークが大切だということ、先人の意見を踏まえながら自分の考えを積み重ねていくこと、これら2つを忘れず、今後の研究に励んでいきたい。

今回こうして研究したことを文章にすることが、とても楽しかった。理解の助けにもなることだから、これからも研究内容を文章にまとめてみようかと思う。

